

TEMPUS テンプレス

2019年(平成31年) **67**号



道陸(どうろく)神社 (木積)



蛇谷(じゃたに)城跡 (木積)



大川の菅原神社 (大川)

戦国時代の武士・松浦(まつら)氏 ゆかりの地

も く じ

楠木正成(くすのきまさしげ)と戦国時代の武士・松浦氏
生誕1350年記念 行基に関するイベントを開催!

第115回かいつか歴史文化セミナー

フォーラム: 貝塚の「近代化」を考える /

『貝塚市の70年』を読む会 秋の記念講演会

小学校巡回展示「岩橋善兵衛の科学技術」 /

岩橋善兵衛と望遠鏡⑦

- 善兵衛をめぐる人びと その4 -

古文書講座 - 市内に残る身近な古文書 -

文化財講座・セミナー



根福寺(こんぷくじ)城(野田山城)跡のふもとにある殿の墓

(大川)

楠木正成と戦国時代の武士・松浦氏

今回は、企画展「楠木正成と中世貝塚の武士たち」の開催にあわせ、貝塚市内の山手地区を本拠地として活躍した戦国時代の武士、松浦氏について紹介します。

楠木正成と松浦氏

楠木正成（生年不詳～1336年）は、鎌倉時代末期から南北朝時代にかけて活躍した武士で、後醍醐（ごだいご）天皇のもとで鎌倉幕府の打倒に尽力し、「建武の新政」の名で知られる後醍醐天皇を中心とする新政府の樹立に貢献したことで知られています。その後、新政府に対して反乱をおこした足利尊氏と戦い、摂津国兵庫の湊川（現在の兵庫県神戸市）で敗死しました。



皇居前に建つ楠木正成像が印刷された五銭紙幣 個人蔵



昭和 30（1955）年頃の西葛城神社

木積（こつみ）の西葛城神社に合祀（ごうし）されている楠木神社には、正成と共に戦った松浦氏一族の者が、正成の死後、その霊を祀るために楠木神社を建立したという伝説があります。

松浦氏は戦国時代の武士であるため、伝説の内容をそのまま信じることはできませんが、おそらく後の時代に正成の忠誠心や武勇を尊敬する松浦氏によって楠木神社が建立されたことから、こうした伝説が生まれたものと思われます。

和泉国の松浦氏一族

松浦氏は、室町時代末期の16世紀に、代々和泉国の守護代（守護の代行者）を務めた一族で、肥前国松浦郡地方（現在の佐賀県北西部及び長崎県北東部）の武士集団「松浦党」の一族だと考えられています。

和泉国において松浦氏が初めて記録に登場するのは明応年間（1492～1501年）です。この時期には松浦盛が和泉国の守護代として記録されています。文亀元（1501）年以後は、盛の跡を継いだと考えられる松浦守（まもる）が守護代として記録されています。守は、守護権を代行しつつ和泉国内における支配力を伸ばし、享禄・天文年間（1528～55年）頃には、守護細川氏との関係は保ちつつも、守護から自立した存在になっていったと考えられています。その後、天文17（1548）年、室町幕府の管領（かんれい、室町幕府の将軍に次ぐ最高職）であった細川晴元とその家臣の三好長慶（ながよし）の対立が激化すると、守は三好方につきました。翌年、細川政権は崩壊し、守は三好政権の下で名実ともに和泉国を支配する存在となったと考えられています。

現在の研究からは、永禄年間（1558～70年）以降、万満（まんみつ）、孫八郎が守の跡を継いだと考えられています。また、同時期には、孫五郎虎や光が記録に残っており、天正年間（1573～92年）頃まで一族の者たちが活躍したことが知られています。

松浦守と貝塚

松浦氏の中で、最も貝塚市と関係が深いのは、文亀元（1501）年頃から天文年間（1532～55年）にかけて和泉国の守護代を務めた松浦守です。

守は、江戸時代の地誌によると、木積の蛇谷城【表紙写真】の城主と伝えられています。蛇谷城は、木積の畑地区に隣接する蛇谷山の山頂に築かれた中世城郭でした。この城がある蛇谷山のふもとに位置する道陸神社【表紙写真】は足の神様として有名ですが、この神社はかつて蛇谷城の城内に祀られていたもので、城の兵士が湧き出る清水によって足の傷を治したことから、足の神様「どうろくさま」として信仰されるようになったといわれています。

また、守は蛇谷城以外にも和泉に野田山城を築いており、記録では天文4（1535）年の築城とされています。野田山城は、後に紀伊国の根来寺勢が奪い取り根福寺城【右絵図】と改めた和泉国最大の山城です。野田山城のふもとには大川の集落があり、集落の奥に位置する菅原神社【表紙写真】は守が築いたものと伝えられ、集落の入口にある共同墓地に建てられた五輪塔を浮き彫りにした墓碑は「殿の墓」【表紙写真】とよばれ、城主である守の墓とされています。



紙本著色 根福寺城絵図 岸和田市教育委員会蔵

松浦氏についてはまだまだ不明な点が多くありますが、築いた史跡やその伝承が残っていることは、その存在が大きかったことを物語っています。

企画展「楠木正成と中世貝塚の武士たち」

楠木正成と、貝塚市域で活躍した中世の武士たちに関する資料を展示します。

会期 平成31年3月9日(土)～4月21日(日)

会場 貝塚市郷土資料展示室(貝塚市民図書館2階)

観覧 無料

休室日 毎火曜日、3月21日(木)、4月3日(水)



紙本著色 楠木正成像 妙順寺蔵

生誕1350年記念 行基に関するイベントを開催！

平成30年は、奈良時代に民間布教と社会事業で活躍した行基(668～749年)の生誕1350年に当たる年でした。行基は、仏教の教えを広め、畿内に四十九の寺院を造営したほか、各地にため池や橋、港を築くなど、弟子たちや民衆とともに、様々な社会事業に貢献した人物です。昨年秋、水間寺の創建や永寿池の築造など、貝塚市内にも多くの伝承が残る行基について様々なイベントを開催しました。

(1)郷土資料展示室特別展「行基と貝塚 - その生涯と伝承 -」 (平成30年11月4日～12月16日)

特別展では、行基の生涯とその事跡を紹介した上で、行基と水間寺と題した展示コーナーを設け、市内に残る行基伝承を紹介いたしました。期間中、654人の方に来室いただきました。

展示では、廃妙楽寺に安置されていた「木造行基坐像」や、水間寺の関係資料、行基が本尊に似せた観音像を製作した伝承が記される「泉州日根郡珀谷山吉祥園寺縁起(はくやざんきっしょうおんじえんぎ)」、また、半円筒状の一方を細くした行基式丸瓦と平瓦を交互に重ねていく屋根瓦の葺き方の「国宝孝恩寺観音堂の行基葺き瓦」などを展示いたしました。



木造行基坐像(貝塚市蔵)

(2)第116回かいづか歴史文化セミナー 講演会 「行基と古代の大阪」(平成30年11月18日)

貝塚市民福祉センター4階中会議室において、大阪歴史博物館館長の栄原永遠男(さかえはらとわお)さんを講師に迎え、満員の会場の中、古代の大阪、特に貝塚を含む和泉地方での行基とその集団の活動についての講演会を開催しました。



講演を熱心に聴き入るみなさん

講演会では、『行基年譜』をはじめ、『天平十三年記』、『皇代記』、『年代記』など当時の史料の信ぴょう性を含め、解説いただきました。また、貝塚市内に造ったとする神前船息(こうざきのふなすえ)について、兵庫の大輪田船息(おおわだのふなすえ)との違い、阿波・淡路などから海を渡った人々を受け入れたことなどを詳しく説明いただきました。

(3)第117回かいづか歴史文化セミナー 現地見学会 「行基の足跡と水間街道を探訪しよう」(平成30年12月16日)

水間鉄道水間観音駅を集合場所として、水間街道を探訪しながら、昭和初期に描かれた水間寺境内図をもとに、水間寺の境内周辺を見学いたしました。当日は、水間寺のご協力により、本市指定文化財である行基堂の内部も見学させていただくとともに、水間鉄道沿線の地域活性化を図る「すいてつ沿線魅力はっしん委員会」からは、境内の写経堂にて甘酒を提供いただき、水間寺の様々な建造物を学芸員の解説でめぐりました。



水間寺三重塔の説明を聴く参加者

フォーラム 貝塚の「近代化」を考える

平成30年10月13日（土）、貝塚市民図書館視聴覚室において、関西学院大学教授の高岡裕之さん、大阪府立大学准教授の岡田光代さんを講師に迎えて、フォーラムを開催しました。

岡田さんは、幕末から明治にかけて、銀目廃止令により、銀中心の経済から金へ移行することで混乱が生じたこと、泉州で盛んだった木綿生産が明治になり仲買の取引に変化が見られ、輸出量が増加したことなどを講演いただきました。

続いて、高岡さんは、明治維新について、明治元（1868）年の改元からと考えられ、今年が明治150年と言われている、しかし、歴史用語としての明治維新は、諸説あるが明治元年前後数十年の激動の時代を総称すること、また、貝塚市域の近代化の特徴として綿織物業の近代化について講演いただきました。講演の後、それぞれの研究分野から討論を展開することで、貝塚の「近代化」について触れる良い機会となりました。



『貝塚市の70年』を読む会 秋の記念講演会

平成28年10月にスタートした「『貝塚市の70年』を読む会」は2年が経過し、歴史の舞台は高度経済成長期以降へと進んでいます。

平成30年11月25日（日）、貝塚市歴史展示館において、第1回で講師を務めていただいた、『貝塚市の70年』編纂委員長であった高岡裕之さんに再度登壇いただき、秋の記念講演会を開催しました。

内容は、1960年代から90年代において、1970年の日本万国博覧会開催や、1994年の関西国際空港開港などのビッグプロジェクトに関連する道路・鉄道などの交通網整備を中心に、貝塚市を含む泉州地域、さらに大阪府に至る地域開発の様子を講演いただきました。

高度経済成長期における開発の勢いから一転、オイルショックで急ブレーキがかかった泉州地域の交通網整備は、バブル経済を背景に関空開港でようやく実現されました。鉄道では、南海・JRの空港線建設、道路では阪神高速湾岸線や阪和自動車道などの延伸が空港のアクセスとして一気に進められました。貝塚市では府道40号岸和田牛滝山貝塚線（主要地方道貝塚中央線）が整備され、湾岸線と阪和道の2つの貝塚インターチェンジをつなぐ背骨となる道路が完成し、今ある交通網が整備されました。

こうした結果に対し、国の大きなプロジェクトのもと、貝塚市がうまくその流れに合わせて、市の基本計画を実現させたと評価されました。



小学校巡回展示「岩橋善兵衛の科学技術」

平成30年9月14日から12月3日にかけて、市内11小学校で、それぞれ1週間ずつ、巡回展示「岩橋善兵衛の科学技術」を開催しました。

貝塚市教育委員会では、平成29年3月に『貝塚・発見伝 - 貝塚学 - 』を刊行し、歴史・文化・自然の様々な魅力あるまち「貝塚」を児童自身で発見してもらおうと取り組んでいます。その趣旨に沿って、歴史遺産である当時の資料に、子どもたちが直接触れることで、**展示物（レプリカ）に触れる子どもたち**歴史を身近なものとしてとらえてもらえるよう小学校での巡回展示を行いました。



今回は、江戸時代に貝塚で望遠鏡作りを始め、天文学の普及に努めた岩橋善兵衛の業績を紹介し、善兵衛の著書『平天儀図解（へいてんぎずかい）』と『平天儀』のレプリカ、天体観測に用いる望遠鏡「窺天鏡（きてんきょう）」の模型を展示しました。実物に近い形の展示物に多くの子どもたちが興味や関心を持ち、熱心に見入っていました。

こうした取り組みを通じて、地元のまち貝塚に愛着を持ち、学び育ったことを誇らしく語ることでできる子どもの育成につなげていきたいと考えています。

岩橋善兵衛と望遠鏡⑦ - 善兵衛をめぐる人びと その4 -

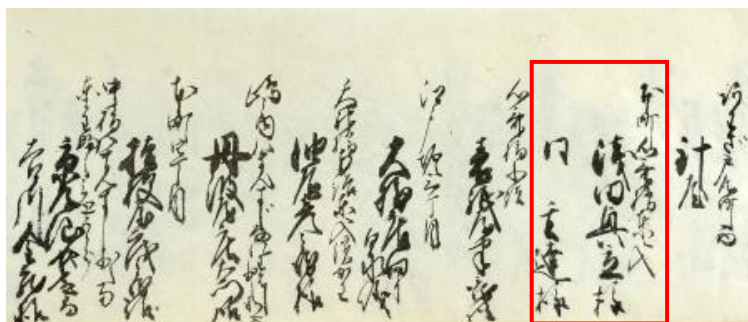
善兵衛の望遠鏡は、初めて西洋天文学が取り入れられた暦『寛政暦』（かんせいれき）の作成に大きな役割を果たしたことが知られています。今回は、この改暦の中心となった高橋至時（たかはしよしとき）と間重富（はざましげとみ）が師事した麻田剛立（あさだごうりゅう）を紹介します。

剛立は、豊後国（ぶんごのくに、現在の
大分県）杵築（きつき）藩の出身でしたが、39歳の時に脱藩し、大坂に出て姓を麻田と改めました。

大坂の学問所「懐徳堂」（かいとくどう）の中井竹山・履軒（ちくざん・りけん）兄弟の助けを得て、本町で医師として開業するとともに、暦学（天文学）の私塾「先事館」（せんじかん）を開きました。

先事館では、最新の西洋暦学を漢訳した『崇禎暦書』（すうていれきしょ）をもとに、そこに書かれた理論を天体観測で確認するという実証的な手法が取られました。剛立は、当時の暦に記されていない宝暦13（1763）年9月1日の日食を指摘していたことから幕府の目に留まり、寛政の改暦にあたって暦学御用を命じられました。しかし、剛立が高齢を理由に辞退したため、門弟の高橋と間が暦学御用に抜擢されることになりました。

善兵衛の「仕入方直段控帳」（しいれかたじきだんひかえちょう、「直段」は値段のこと）には、漢字に誤りがありますが「本町心齋橋東へ入 浅田興立様・同玄達様」とあり、剛立と養子の立達（りゅうたつ）が得意先として記されています。



「仕入方直段控帳」に見られる「浅田興立・玄達」
（麻田剛立と立達）の記載部分

古文書講座

— 市内に残る身近な古文書 —

◆江戸時代のものづくり

平成30年10月10日から11月21日にかけての水曜日、全5回にわたり「江戸時代のものづくり」と題して古文書講座を開催しました。

これまで江戸時代を取り上げる際、政治や商業、地域社会などにスポットを当ててきました。今回は工業に視点を向け、当時のものづくりを考えていこうと、油に関する様々な資料をみていきました。



熱心に聴き入る受講生のみなさん

江戸時代には、菜種や綿実などの作物から灯りをとす油を作っていました。その際、水車や人の力で臼（うす）を回して、油を絞り出す製法を用いました。村々から集められた油は貝塚寺内町や堺、大坂の油屋へ運ばれました。そこで、精製されて品質の高い油に加工され、各地へと販売されていきました。

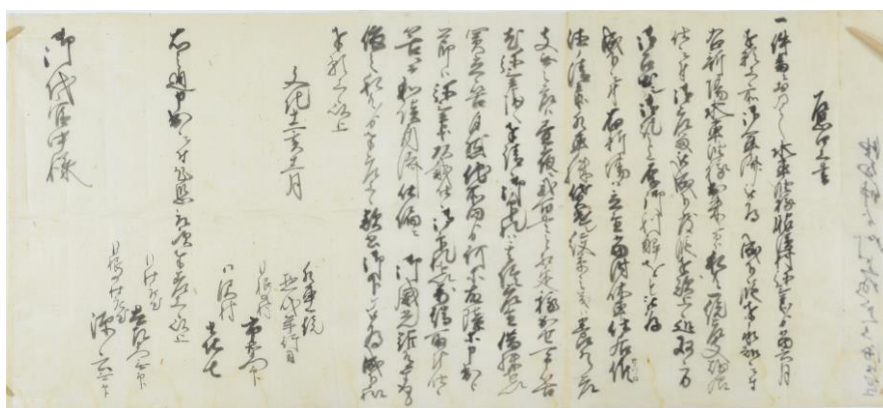
講座では、その油屋仲間の申し合わせや取り決めなどをみていきました。文化元（1804）年10月に出示された申し合わせでは、村々から集められた不純物の含まれる精製前の油が入っていた桶や樽に、加工精製された完成品の油を入れて販売することが問題となっていたことがわかりました。同じ容器であることが混乱のもとになっていることから、完成品は新しく作った桶や樽に詰めて、どこの油屋の油かがわかるように、住所と屋号を記した紙の札を貼って、販売することとしました。この決まりを守らない者に対しては、油屋仲間から除名する厳しい処分とされました。江戸時代はこうした同じ商売の仲間に入らず、勝手に商売することは難しく、特に大坂・堺など幕府直轄の町では幕府公認の株仲間に入らなければなりません。このように、5回の講座を通じて、当時の油づくりの仕組み、仲間の活動などを読み解くことができました。

受講者の方からは「物づくりも種々あり、当時の職人の姿勢など知らなかったことがわかりました」、「文の上ではとてもへり下って丁寧に相手を持ち上げていますが、その裏で文句を言っている泉州弁のおっちゃんの顔が浮かんできます」との声が寄せられました。

なお、1月16日から2月13日にかけては、今回紹介した講座に引き続いて「江戸時代のものづくり2」を開催しています。

内容は瓦づくりや醤油づくりをテーマに、当時の古文書を読み解いています。

その次の講座は6月から7月にかけての開催を予定しております。ご参加をお待ちしています。



水車で油搾ぎについて争論になったが解決した際の口上書（要家文書）

文化財講座・セミナー

郷土資料展示室

◆ 2月

郷土 6日(水) 13:15～ 古文書講座58「江戸時代のものづくり2」④

郷土 13日(水) 13:15～ 古文書講座58⑤

歴史 24日(日) 14:00～ 『貝塚市の70年』を読む会28
「貝塚の漁業と二色の浜」

「貝塚市の
指定文化財」展
第3期

2/18(月)

3/9(土)

◆ 3月

歴史 31日(日) 14:00～ 『貝塚市の70年』を読む会29
「公共施設の移転とその変遷」

企画展
「楠木正成と
中世貝塚の
武士たち」

◆ 4月

歴史 21日(日) 14:00～ 『貝塚市の70年』を読む会30
春の記念講演会「高度経済成長下の貝塚市政」
講師：上岡兼千代さん(本市文化財保護審議会会長)

4/21(日)

◆ 5月

郷土 11日(土) 14:00～ 第118回かいづか歴史文化セミナー
「岸和田藩と七人庄屋」
講師：萬代悠さん(公益財団法人三井文庫研究員)

5/11(土)

歴史 26日(日) 14:00～ 『貝塚市の70年』を読む会31
「貝塚市の地場産業」

「貝塚市の
指定文化財」展
第1期

6/30(日)

※ 郷土 : 郷土資料室 歴史 : 歴史展示館

貝塚市歴史展示館(ふるさと知っとこ!館)企画展 -開催中-

「150年の時を超えて—明治時代の貝塚—」

今回の展示では、太政官高札などの実物資料を展示するほか、明治時代の貝塚についてパネル展示を中心に紹介いたします。

会 期 平成31年4月28日(日)まで

開館時間 午前10時～午後4時

〈会期中の休館日〉

- ・ 毎火曜日
- ・ 2月11日(月・祝)
- ・ 3月21日(木・祝)

かいづか文化財だよりテンプス67号



平成31年2月1日発行
貝塚市教育委員会
〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1
Tel(072)433-7126 Fax(072)433-7053
Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp
※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。
年3回発行:各1,000部



貝塚市イメージ
キャラクター
つげさん
貝塚市特産品「つげ櫛」
をモチーフとしたデザ
イン。